

磐梯山ジオパーク アクションプラン

2024-2029年度



磐梯山ジオパーク
BANDAISAN GEOPARK

2024年6月作成
磐梯山ジオパーク協議会

目次

計画の位置づけと取組内容	3
保全計画の適切な運用（エリアとジオサイトの保全、管理）	4
調査研究の推進（研究成果の活用）	7
教育活動の普及（学校教育と生涯教育の充実）	10
ジオツーリズムの活性化（産業振興と観光の高付加価値化）	13
情報発信の強化（多角的な情報収集の実施）	16
住民の理解と参画の促進（地域活性化と防災意識の向上）	19
ネットワーク活動の推進と運営体制の強化（持続可能な運営）	22
参考 SDGs17の目標	25

計画の位置づけと取組内容

磐梯山ジオパークアクションプラン(以下、本アクションプランという)は、磐梯山ジオパーク基本計画(2021年度～2029年度)で定めた行動指針を具現化するための具体的な事業を定めたものです。

本アクションプランの計画期間は、2024年度～2029年度までの6年間とし、基本計画の「主に実施していく7つの取組」について実践します。

本計画期間中は、地域の実情や、ジオパークを取り巻く社会情勢の変化等を踏まえ、ジオパークの適正な管理運営のために必要がある場合は、柔軟に見直しを行います。

7つの取組

- ① 保全計画の適切な運用（エリアとジオサイトの保全、管理）
- ② 調査研究の推進（研究成果の活用）
- ③ 教育活動の普及（学校教育と生涯教育の充実）
- ④ ジオツーリズムの活性化（産業振興と観光の高付加価値化）
- ⑤ 情報発信の強化（多角的な情報収集の実施）
- ⑥ 住民の理解と参画の促進（地域活性化と防災意識の向上）
- ⑦ ネットワーク活動の推進と運営体制の強化（持続可能な運営）

SDGsの取組

2015年9月の国連総会において、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、2030年を期限とする17の持続可能な開発目標(SDGs; Sustainable Development Goals)が採択されました。

磐梯山ジオパークでは、SDGsの趣旨に賛同し、本アクションプランの中で、各活動と17の目標の繋がりを明確にし、ジオパーク活動を通じて社会が抱える問題の課題解決を目指します。

① 保全計画の適切な運用 エリアとジオサイトの保全、管理

◆基本的な考え

貴重な地域資源を適切に保護・保全することはジオパーク活動の基本である。このため幅広い関係者の活動と交流連携を支える推進体制を充実するとともに、令和3年度策定「磐梯山ジオパーク保全計画」に基づき、保全活動を継続的に進める。

また、保護・保全に加えて貴重な資源を有効に活用することは、地域の魅力向上と振興につながることから、環境省や地元企業と連携した取り組みを進め、SDGsの貢献の観点から積極的に取り組んでいく必要がある。

◆主な課題

- A 保護保全のモニタリングに関わる情報共有・支援
- B 貴重な地形・地質資源、自然環境及び野生動植物の保護保全活動の推進体制の構築
- C 保護保全活動支援事業の充実によるジオサイトの持続可能な利用
 - ・ 保護保全エリアの明確化
 - ・ 地域別課題の見える化と住民の活動団体との情報共有
 - ・ 森林環境整備、水源、湖沼や河川などの環境問題への対応
 - ・ 地質物品取引に係る防止対策の充実

① 保全計画の適切な運用 エリアとジオサイトの保全、管理

◆優先して取り組む事項

A 保護保全のモニタリングに関わる情報共有・支援

A-1

モニタリングデータベースの公開情報・非公開情報の整理を行い、関係者間で共有を図る。また、HPなどで閲覧できるようにする。

B 貴重な地形・地質遺産、自然環境及び野生動植物の保護保全活動の推進体制の構築

B-1

ジオパーク構成団体や地域内で保全保護活動をしている個人や団体との関わりを整理し、モニタリング等保全活動の一本化を図る。

C 保護保全活動支援事業の充実によるジオサイトの持続可能な利用

C-1

保全計画に沿ったモニタリングとそれに基づく具体的保全活動を実施する。

C-2

地域の巡回や調査研究の成果をもとに新たなジオサイトの開拓を行う。

① 保全計画の適切な運用 エリアとジオサイトの保全、管理

事業名	項目	事業内容	事業主体名	2024	2025	2026	2027	2028	2029
① 保全計画の適切な運用	A 情報共有・支援	A-1 モニタリングデータベース化と共有	調査研究部会 教育普及部会						
	B 推進体制の構築	B-1 保全活動の整理と一本化	調査研究部会 教育普及部会						
	C 持続可能な利用	C-1 保全計画に基づいたモニタリングの実施	事務局 調査研究部会 教育普及部会						
		C-2 新たなジオサイトの開拓	事務局 調査研究部会 教育普及部会						

◆達成目標

- ・公開可能なモニタリングデータが関係者間で閲覧できる状態になっている。
- ・保全活動の整理がされ、活動内容が一覧化されている。
- ・巡回や調査をもとに、新しいジオサイトが追加されている。

② 調査研究の推進 研究成果の活用

◆基本的な考え

磐梯山ジオパークのエリアを研究対象とする大学、研究機関等における研究活動を支援するとともに、その成果を地域人材育成や課題解決のために有効活用する。更に近年増加する様々な自然災害の発生に大きく関わる磐梯山エリア地域の地形や地質について学ぶ場を充実するなど、防災教育にも積極的に取り組んでいく。

◆主な課題

- D 学術的な研究や調査活動等に対する支援制度の創出と発信
- E エリア内を対象とする大学や研究機関で実施された研究成果の発表の場の設定と発表された学術成果の体系的な整理
- F 気候変動が地域に及ぼす影響や再生可能エネルギーなど循環型社会への転換に関する意識の向上
 - ・ ジオパークの研究成果を活かした地域学や学校教育との連携

② 調査研究の推進 研究成果の活用

◆優先して取り組む事項

D 学術的な研究や調査活動等に対する支援制度の創出と発信

D-1

研究成果をどのようなジオパーク活動に活用するのか共有を図るとともに、研究支援制度の確立を図る。

E エリア内を対象とする大学や研究機関で実施された研究成果の発表の場の設定と体系的な整理

E-1

研究やその成果を協議会として共有し、研究機関との連携強化を図る。

E-2

磐梯山ジオパークエリアに関して公表された学術成果の体系的整理を行う。

F 気候変動が地域に及ぼす影響や再生可能エネルギーなど循環型社会への展開に関する意識の向上

F-1

気候変動が地域に及ぼす影響と課題の抽出を行う。

② 調査研究の推進 研究成果の活用

事業名	項目	事業内容	事業主体名	2024	2025	2026	2027	2028	2029
② 調査研究の推進	D 支援制度	D-1 研究支援制度の 確立を目指す	調査研究部会 事務局						
	E 研究成果の場と学 術成果の整理	E-1 研究機関との連 携強化	教育普及部会 広報啓発部会						
		E-2 学術成果の体系 整理	教育普及部会 事務局						
	F 気候 変動	F-1 気候変動の影響 と課題の抽出	調査研究部会 事務局						

◆達成目標

- ・研究助成金が支給できている。
- ・研究成果がデータベース化されている。
- ・気候変動の影響と課題が抽出され、整理されている。

③ 教育活動の普及 学校教育と生涯教育の充実

◆基本的な考え

教育・普及活動における取り組みは、未来のジオパーク活動を支える人材育成において重要である。このため、様々な体験学習の場と学習成果の発表の場を設けるとともに、学校教育と連携した取り組みの強化を図る。

◆主な課題

- G 体験を通じたジオパーク活動の推進やSDGs関連教育プログラムとの関連性の強化
- H 学習指導要領の改訂に対応したジオパーク学習の推進と学校教育との連携強化
- I 教育旅行の多様な学習に関するニーズ、情報収集、分析、プログラム開発の推進
- ・ ジオパークに関わる調査研究を国内外で発表する青少年などの支援及び持続可能な地域づくりを担う若者の育成など、ジオパーク活動に参画する人材の育成強化
- ・ 学校教育や社会教育地域活動において、火山噴火、洪水や地震など災害に対する意識を高め被害を軽減する方法について学ぶ機会の創造

③ 教育活動の普及 学校教育と生涯教育の充実

◆優先して取り組む事項

G 体験を通じたジオパーク活動の推進やSDGs関連教育プログラムとの関連性の強化

G-1

教育旅行受入れプログラムとして、ジオパーク学習（SDGsプログラムを含む）のパッケージ化を図り、エリア外からの教育旅行を誘致する。

H 学習指導要領の改訂に対応したジオパーク学習の推進と学校教育との連携強化

H-1

これまで実施してきた出前授業内容のデータベース化を行い、出前授業プログラムのカタログを作成する。

H-2

地元小中学校と継続的なジオパーク学習を実施し、協定の締結を目指す。

H-3

磐梯山ジオパークカレーの教育活用を通して、食育プログラムとしての定着を図る。

I 教育旅行の多様な学習に関するニーズ、情報収集、分析、プログラム開発の推進

I-1

当地域で教育旅行を実施している学校への魅力向上プログラムをDM等で発信し、ニーズ調査を行う。

I-2

エリア内での出前授業の内容を時間別プログラムなど対外向けにブラッシュアップする。

③ 教育活動の普及 学校教育と生涯教育の充実

事業名	項目	事業内容	事業主体名	2024	2025	2026	2027	2028	2029
③ 教育活動の普及	G 学校教育プログラム関連性強化	G-1 ジオパーク学習プログラムの整備（SDGsを含む）	教育普及部会 広報啓発部会事務局						
	H 学校教育連携強化	H-1 出前授業プログラムのカタログ化	教育普及部会事務局						
		H-2 地元小中学校と継続的なGP学習の実施	教育普及部会事務局						
		H-3 ジオパークカレーを通した食育	教育普及部会事務局						
	I 教育旅行に関するプログラム開発推進	I-1 当地域で教育旅行を実施している学校への情報発信	広報啓発部会事務局						
		I-2 当地域向け出前授業の内容を対外向けに磨き上げる	教育普及部会 調査研究部会事務局						

◆達成目標

- ・ジオパーク学習(SDGsを含む)がパッケージとして流通している。
- ・エリア内の小中学校で一度は給食として磐梯山ジオパークカレーが活用された状態。
- ・エリア外の教育旅行受入が20校になっている。

④ ジオツーリズムの活性化 産業振興と観光の高付加価値化

◆基本的な考え

ジオパーク活動を安定的に継続して行くためには、地域の資源を有効に活用したツーリズムの振興など地域経済の好循環が不可欠である。このためジオパークの価値・魅力を伝えるためのストーリーを総合的な視点から再構築し、魅力的な商品の開発につなげるとともに、関連事業振興のための継続的で有効なサポート体制を整備していく必要がある。

ジオガイドや関連事業者、地域住民に求められるスキルアップを図るための継続的な支援の仕組みと住民、顧客、企業が連携して取り組める環境の整備に努めていきたい。

また、当地域にある国立公園プログラム、エコツーリズム、グリーンツーリズム、日本遺産プログラム、ヘルスツーリズム、アドベンチャーツーリズムなど、多様な活動と連携し、外国人旅行者の受け入れ体制の充実、商品の高付加価値化を目指していく。

◆主な課題

- J パートナーシップの強化によるジオツーリズムの推進
- K ジオパークエリアの特徴を生かした多様なツーリズムの展開
- L 外国人旅行者などの受け入れ体制のサポート強化
- M ジオガイドとアクティビティの進化
 - ・ 商品の高付加価値化による安定したガイド収入の確保
 - ・ ジオパークが地域の発展に効果をもたらしている成果の見える化

④ ツーリズムの活性化 産業振興と観光の高付加価値化

◆優先して取り組む事項

J パートナーシップの強化によるジオツーリズムの推進

J-1

地域内外の企業や旅行業者などとパートナーシップ協定の締結など、民間企業との連携を強化する。

K ジオパークエリアの特徴を生かした多様なツーリズムの展開

K-1

ジオツアー等既存商品のカタログ化及び新コンテンツの造成を行う。

L 外国人旅行者などの受け入れ体制のサポート強化(インバウンド対応)

L-1

英語対応の強化、英語ガイドマニュアルの整備、翻訳機の導入を行う。

M ジオガイドとアクティビティの進化

M-1

有償ジオガイドの質の向上を図るため、ガイド養成講座を継続的实施する。

④ ツーリズムの活性化

産業振興と観光の高付加価値化

事業名	項目	事業内容	事業主体名	2024	2025	2026	2027	2028	2029
④ ツーリズムの 活性化	J ジオ ツー リズム 推 進	J-1 パートナーシ ップ協定による連 携強化	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局						
	K 多様 なツ ーリ ズ ム	K-1 多様なツーリ ズの展開	教育普及部会 事務局						
	L イン バウ ンド 対応	L-1 英語対応の強化 (マニュアル整 備・翻訳機の導 入)	教育普及部会 広報啓発部会 事務局						
	M ジオ ガイ ド育 成	M-1 ガイド育成のた め、養成講座の の実施	教育普及部会 広報啓発部会 事務局						

- ◆達成目標
- ・ガイド養成講座が年3回以上開催されている。
 - ・英語対応ガイドが1名以上手配できる。

⑤ 情報発信の強化 多角的な情報収集の実施

◆基本的な考え

ジオパークの活動を活性化していくためには、地域の内外を問わず磐梯山ジオパークに興味・関心を持つ人々を増やしていくことが重要である。さらに、この観点からジオパークに関する様々な情報を収集し、魅力的な情報を効果的に発信していくことが必要となる。

このため、従来の紙媒体に加え、SNSなどによる情報発信を強化し、明確な訴求対象を設定して実施する。また、国内外のジオパークの優れた活動事例などに関する情報を収集し、活動のレベルアップにつなげるとともに、磐梯山エリアの優れた取り組みも積極的に発信してジオパークネットワークに貢献していく。

◆主な課題

- N ジオパーク活動のレベル向上につながる様々な情報の収集
- O 発信する情報の質・量の向上
 - ・ Web媒体の効果的な活用による戦略的な広報の展開
 - ・ 遠方と来訪者で区別した紙媒体による情報発信力の強化

⑤ 情報発信の強化 多角的な情報収集の実施

◆優先して取り組む事項

N ジオパーク活動のレベル向上につながる様々な情報の収集

N-1

域内の来訪者属性調査の実施、手軽な体験イベント等を通じて、磐梯山エリアの認知度や来訪満足度に関する情報収集を行う。

O 発信する情報の質・量の向上

O-1

ターゲットに合わせた販売促進ツールの明確化及びSNS運用基準の策定と情報公開。

O-2

ホームページや主要パンフレットを適切に更新する。

⑤ 情報発信の強化 多角的な情報収集の実施

事業名	項目	事業内容	事業主体名	2024	2025	2026	2027	2028	2029
⑤ 情報発信の強化	N 情報収集	N-1 域内の来訪者属性調査の実施、 認知度・満足度の情報収集	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局						
	O 情報発信	O-1 ターゲットの明確化・運用基準の策定	教育普及部会 広報啓発部会						
		O-2 HPやパンフレットの更新							

◆達成目標

- ・来訪者属性等のデータ整理が完了している。
- ・ターゲティングをもとに、販促ツールが作成されている。



⑥ 住民の理解と参画の促進 地域活性化と防災意識の向上

◆基本的な考え

住民主導のボトムアップ型活動がジオパーク活動の基本である。このため住民参加の仕組みを整え絶えず進化させることが活動を進める上での第一歩となる。

住民と様々な分野の関係者が議論を重ねる対話の場を可能な限り設定し、互いにジオパーク活動の理念と進むべき方向を共有できる環境を整え、協議会構成団体やこれまで関係が構築できていない企業団体との協働事業を計画するなど、従来の枠を超えた連携にも取り組んでいく必要がある。

また、磐梯山噴火による災害の状況や災害から復興した歴史を正しく伝え、郷土愛の醸成と理解促進を図るとともに、頻発する自然災害に対する防災意識の向上を図る。

これらに基づき、磐梯山ジオパークを訪れる人々がジオパーク活動や磐梯朝日国立公園、様々な地域プログラムをスムーズに体験できる環境づくりと、エリア内をストレスなく周遊できるよう、地域内の拠点施設等で容易に情報を得られる環境整備を強化し、地域住民とともに持続可能な地域づくりの実現を目指していく。

◆主な課題

P 拠点施設の役割分担と機能強化

Q 対話と連携による住民と協働するための仕組みづくり

- ・ 協議会構成員等との連携強化
- ・ 活動の裾野を広げる取り組みの強化



⑥ 住民の理解と参画の促進 地域活性化と防災意識の向上

◆優先して取り組む事項

P 拠点施設の役割分担と機能強化

P-1

エリア内の観光施設、教育施設などヘジオパーク展示やパンフレットの常設、施設スタッフのジオパーク理解の向上を図り、拠点施設の機能強化を図る。

Q 対話と連携による住民と協働するための仕組みづくり

Q-1

磐梯山エリアの火山・噴火・防災テーマとした地域住民向け講座の拡充を図る。

Q-2

日本赤十字社、JAMSTECなどとの連携強化をし、既存プログラムの活用と事業の拡大を図る。

Q-3

地域のイベント等に積極的に参加し、住民との協働するための機運の醸成を図る。



⑥ 住民の理解と参画の促進 地域活性化と防災意識の向上

事業名	項目	事業内容	事業主体名	2024	2025	2026	2027	2028	2029
⑥ 住民の理解と参画の促進	P 拠点施設	P-1 拠点施設の機能強化、関連施設との連携強化	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局						
	Q 対話と連携による住民との協働	Q-1 噴火・災害・防災をテーマとした講座の開催	教育普及部会 広報啓発部会						
		Q-2 日本赤十字社、JAMSTEC等との連携強化	調査研究部会 事務局						
		Q-3 地域イベントへの参加	事務局						

◆達成目標

- ・エリア内の施設で年1回3箇所以上で、展示が行われている。
- ・防災に関する出前講座やイベントが年1回以上開催されている。
- ・地域イベントに年3回以上参加する。

⑦ ネットワーク活動の推進と運営体制の強化 持続可能な運営

◆基本的な考え

ジオパーク活動においてはネットワーク活動が重要視され、ジオパークの仲間による互いの経験や知識を共有することで活動が発展してきている。その上で、共通の活動テーマや課題のある国内ジオパークとも交流を深め、活動のレベル向上につなげていく。

また、活動全般を総合的にかつ効果的に展開できる体制の強化を目指し、行政や地域と協働しながら事業の収益化に向けて取り組んでいく。

◆主な課題

- R 他の国内ジオパークとの連携事業の充実
- S 全体をマネジメントし、この基本計画の課題を検証、解決しうる運営体制の強化
 - ・ ジオパーク活動と全国的な地域づくり活動、持続可能な活動との連携事業の実施

⑦ ネットワーク活動の推進と運営体制の強化 持続可能な運営

◆優先して取り組む事項

R 他の国内ジオパークとの連携事業の充実

R-1

JGN・JGCが主催するイベントや研修会にガイドや事業所などのステークホルダーが参加し、ネットワークの確立を図る。

R-2

JGN・JGCが有する様々な情報を速やかに取得し、当ジオパーク会員と共有し、有効活用を図る。

S 全体をマネジメントし、この基本計画の課題を検証、解決しうる運営体制の強化

S-1

アクションプランの達成度の評価・分析・検証を行い、計画の見直しや改善などのPDCAサイクルを回す。

S-2

各部会の構成員と業務内容の整理及び連携強化を図る。

S-3

事業の収益化、財政強化について協議会が目指す姿の共有を図る。

⑦ ネットワーク活動の推進と運営体制の強化 持続可能な運営

事業名	項目	事業内容	事業主体名	2024	2025	2026	2027	2028	2029
体制の強化	⑦ R 国内GP連携強化	R-1 他国内GPとの連携強化	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局						
		R-2 JGN・JGCの情報の共有	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局						
	S 運営体制強化	S-1 アクションプランの検証	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局						
		S-2 部会等の運営体制の強化	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局						
		S-3 収益化・財政強化の意識の共有	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局						

◆達成目標

- ・JGN事業を当ジオパークエリア内が開催する。
- ・各部会を年1回以上開催し、部会間での内容の共有を行う。

参考資料 SDGs 17の目標

持続可能な開発目標(SDGs)の詳細



目標1【貧困】

あらゆる場所あらゆる形態の
貧困を終わらせる



目標2【飢餓】

飢餓を終わらせ、食料安全保障
及び栄養の改善を実現し、
持続可能な農業を促進する



目標3【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4【教育】

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い
教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



目標5【ジェンダー】

ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女児の
エンパワメントを行う



目標6【水・衛生】

すべての人々の水と衛生の利用可能性と
持続可能な管理を確保する



目標7【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる
持続可能な近代的なエネルギーへの
アクセスを確保する



目標8【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての
人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある
人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



目標9【インフラ、産業化、イノベーション】

強靱(レジリエント)なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進
及びイノベーションの推進を図る



目標10【不平等】

国内及び各国国家間の不平等を是正する



目標11【持続可能な都市】

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で
持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標12【持続可能な消費と生産】

持続可能な消費生産形態を確保する



目標13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための
緊急対策を講じる



目標14【海洋資源】

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を
保全し、持続可能な形で利用する



目標15【陸上資源】

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利
用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠
化への対処ならびに土地の劣化の阻止・
回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標16【平和】

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会
を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提
供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責
任のある包摂的な制度を構築する



目標17【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を
強化し、グローバル・パートナーシップを
活性化する